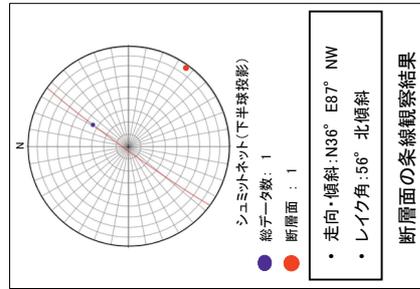
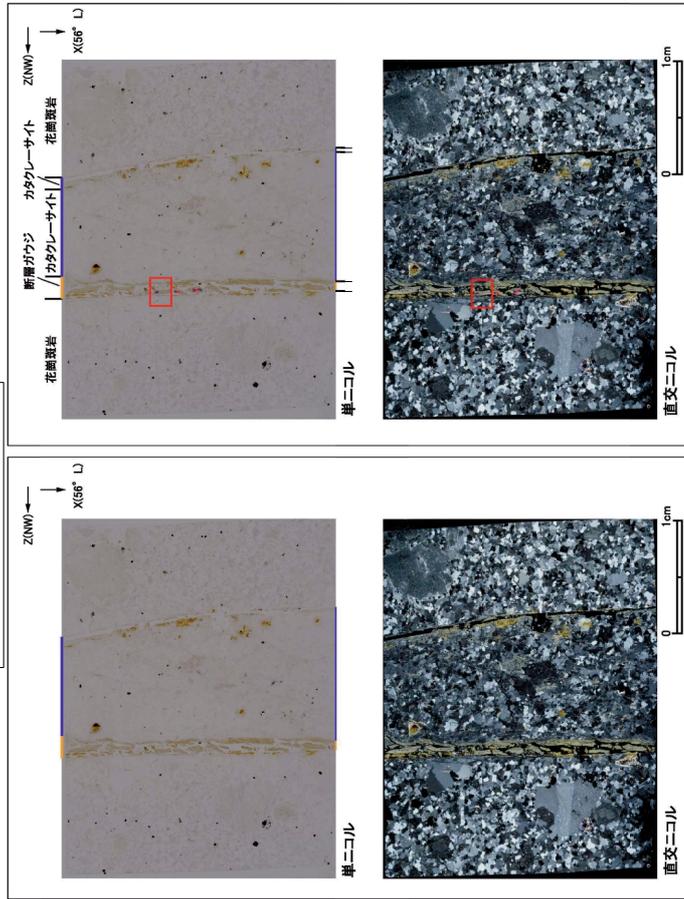


・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

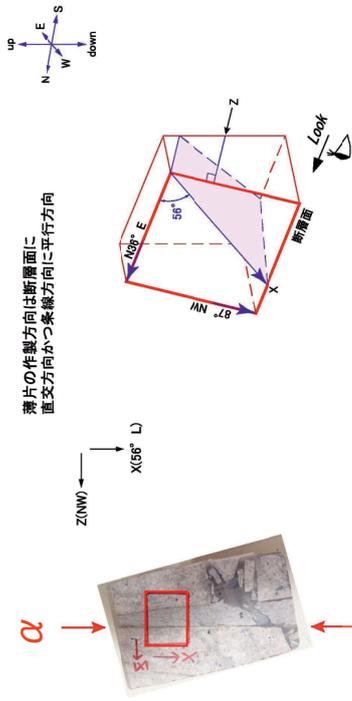
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



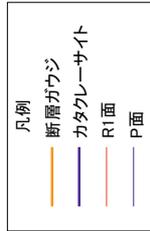
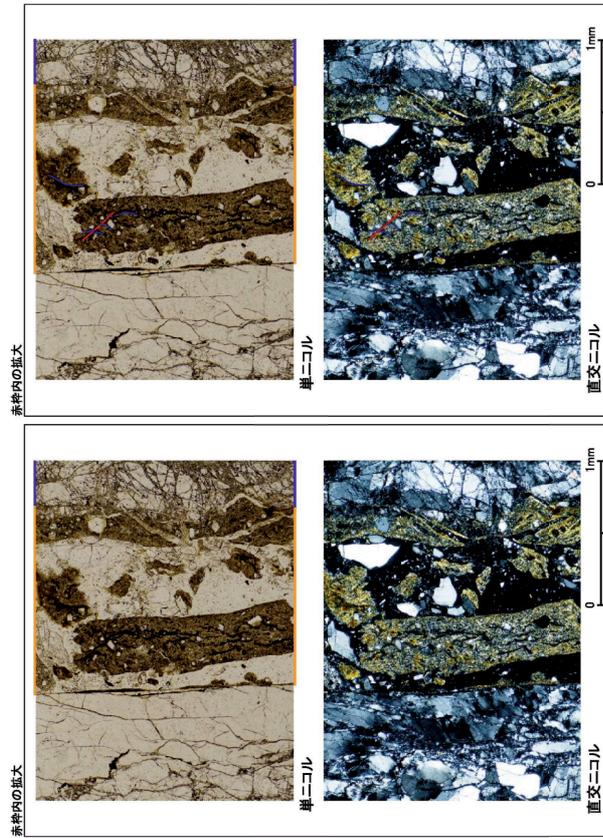
断層面の条線観察結果



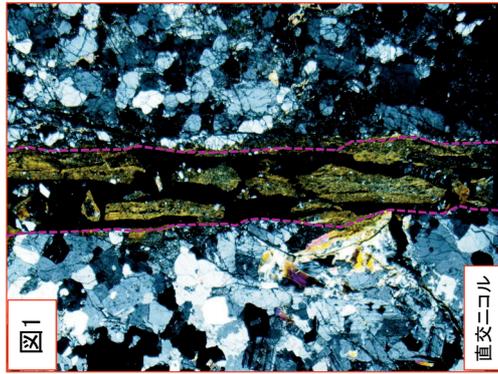
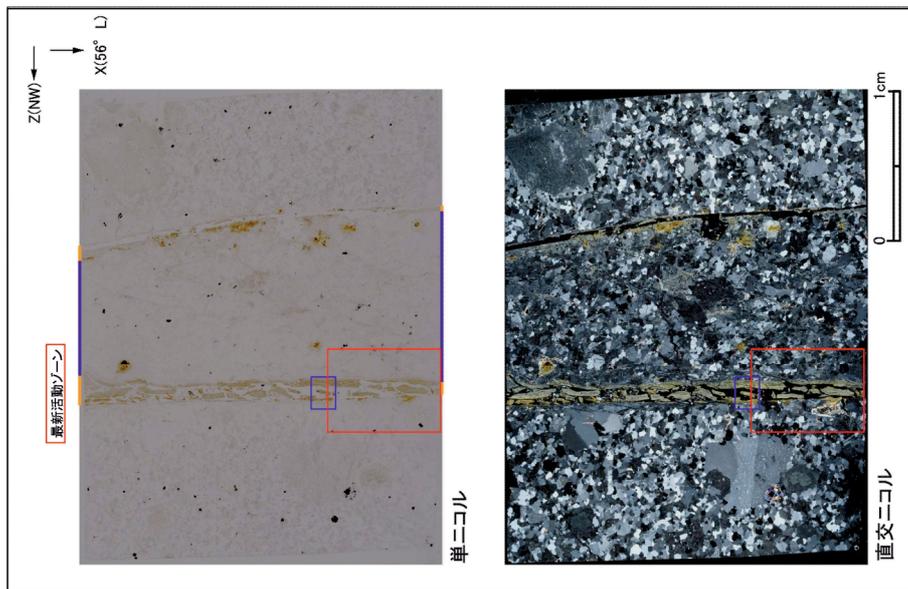
※断層面 α は最新活動面



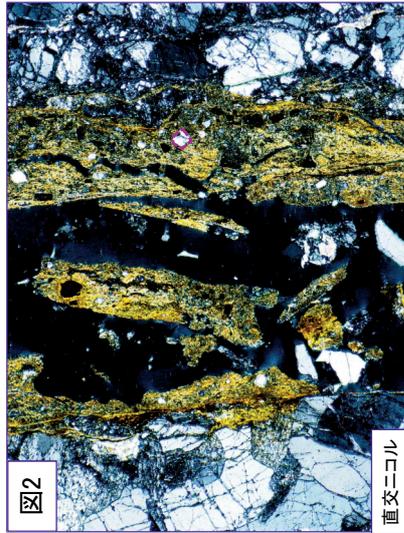
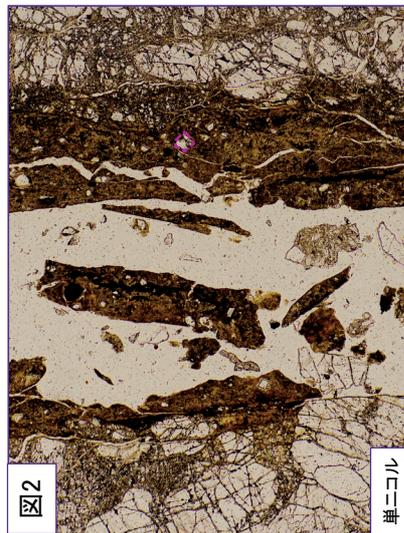
ブロックサンプル



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す

(肉眼観察結果 深度115.00m)

- 肉眼観察では、粘土混じり礫状部はフィルム状の細粒部を挟在し、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できない。また、コアの一部が欠落し、連続性は不明であるが、やや軟質で直線的にフィルム状の細粒部が分布する。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の軟質な細粒部は、原岩組織の有無が判断できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	フィルム状	無

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度119.11～119.16mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度119.16～119.18mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化された岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

・深度119.18～119.25mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●119.11～119.25m：破砕部
 119.11～119.16m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5～10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1～3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙～暗緑灰色を呈する。幅30mm。
 119.16～119.18m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7～10mm。
 119.18～119.25m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行～これと斜交する割れ目で径2～5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部



青砕部拡大

細粒部は局所的に分布する

細粒部は局所的に分布する

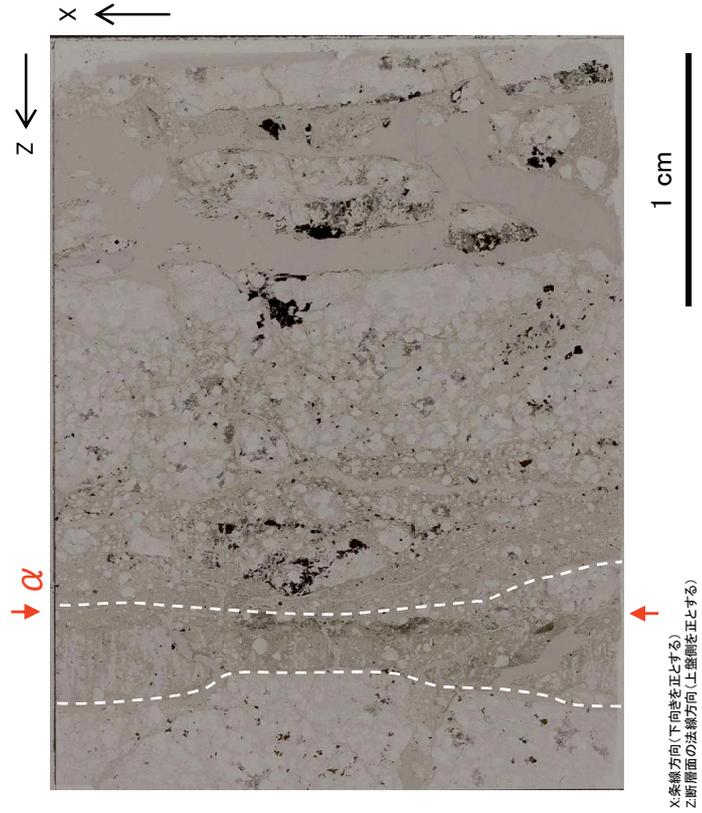
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

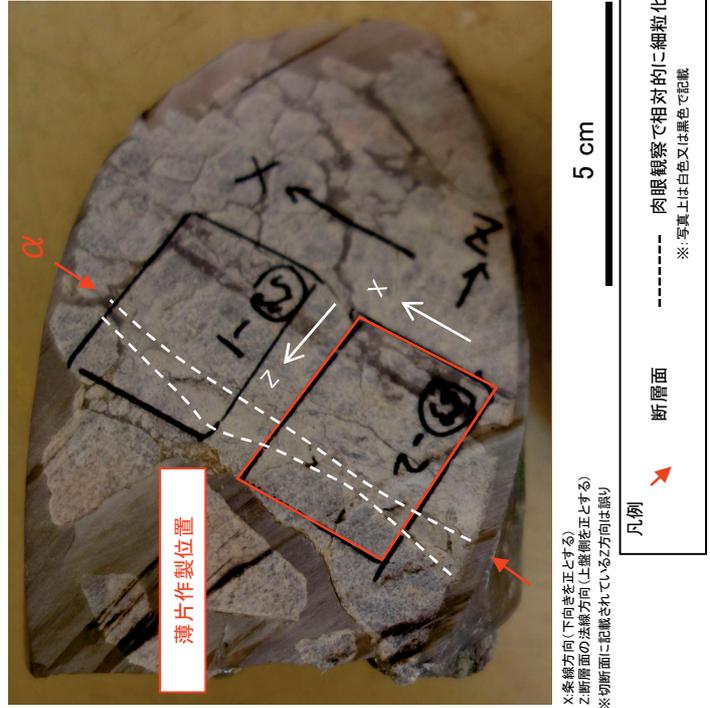
※断層面 α は最新活動面



薄片全景写真(単ニコル)

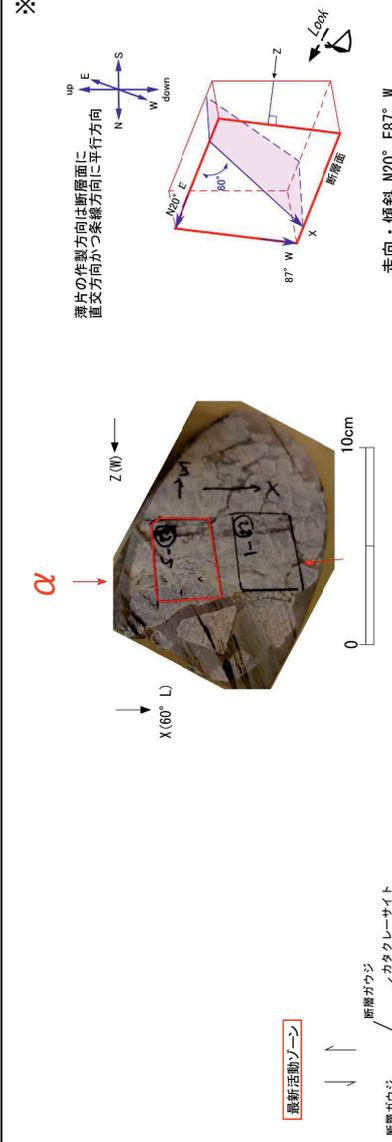
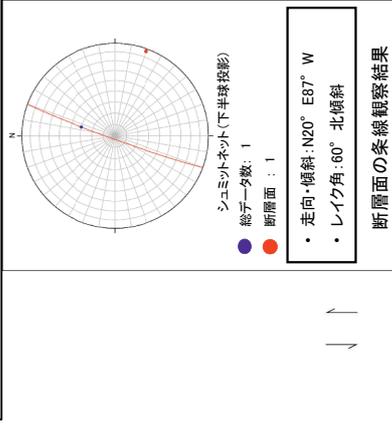


薄片作製位置写真

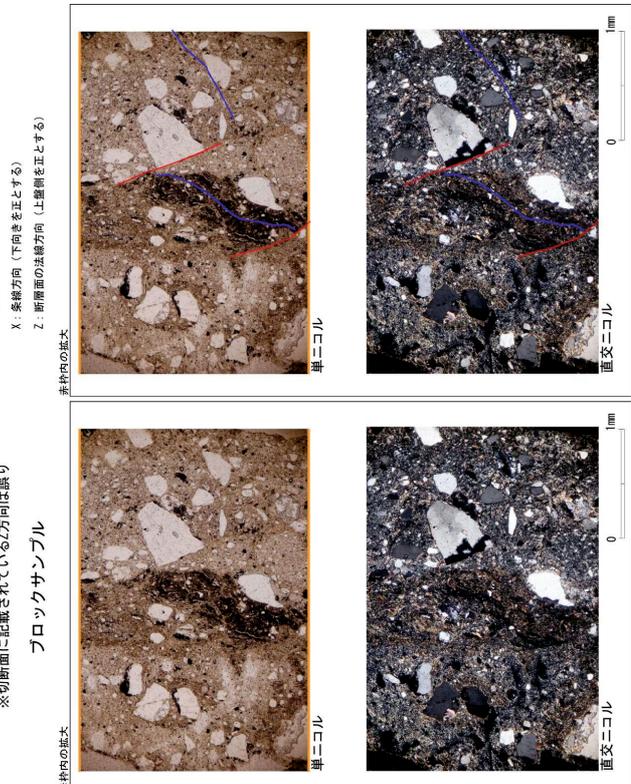
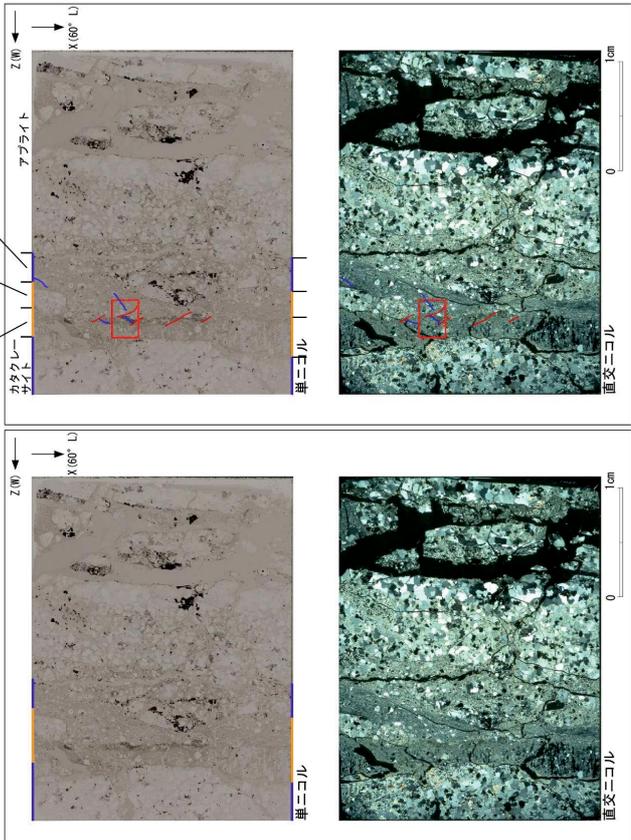


・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、両者の特徴が認められたものと考えられ、断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) セン断層構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 α は最新活動面



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面

第7.4.4.335図 (3) 破砕部性状 H27-B-3 深度119.11~119.25m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/3))